○昭和六十一年郵政省告示第三百九十五号(陸上移動業務の無線局、携帯移動業務の無線局、簡易無線局及び構内無線局の申請の審査に適用する受信設備の特性を定める

## 件)の一部を改正する告示案 新旧対照表 (毎線部は牧田部分) 改 띰 採 煕 $\hat{T}$ 一~円 (容) 1~H (容) 大 シングルキャリア周波数分割多元接続方式携帯無線通信(設備規則第三条第四 大 シングルキャリア周波数分割多元接続方式携帯無線通信(設備規則第三条第四 号の五に規定するシングルキャリア周波数分割多元接続方式携帯無線通信をい 号の五に規定するシングルキャリア周波数分割多元接続方式携帯無線通信をい う。以下同じ。)を行う無線局の審査に適用する受信設備の特性 う。以下同じ。)を行う無線局の審査に適用する受信設備の特性 周波数分割複信方式を用いるものの受信設備 周波数分割復信方式を用いるものの受信設備 严 Ш Ш 陸上移動局 陸上移動局 基地局 基地局 庚 李文 碯 (松) 谧 (密) 1 チャネル間隔が五 凪のも $\mathbb{H}$ コ チャネル間隔が五郎のも $\mathbb{H}$ T 1 最大送信電力が三ハデシ 1 最大送信電力が三ハデシ 效 ベル(一ミリワットを)デシ 效 ベル(一ミリワットを)デシ П 選 ベルとする。) を超えるもの 基準感度より六デシベル 選 2 ベルとする。)を超えるもの 基準感度より六デシベル 択 基準感度より六デシベル 高い希望坡に対し、希望坡の 択 # 基準感度より六デシベル **高い希望坡に対し、希望坡の** 高い希望波に対し、チャネル 崇 周波数から(井)一〇 砒離れ 声 $\lambda$ **高い希望坡に対し、チャネル** 周波数から(t) 一〇 mu 離れ 間隔が五匹の基地局にあっ 間隔が五匹の基地局にあっ た周波数において(1)五六 T た周波数において(I)五六 デシベル(|ミリワットを) ては希望坡の周波数から デシベル(|ミリワットや) ては希望坡の周波数から (t) 一〇 砒離れた周波数に (井)一〇 砒離れた周波数に デシベルとする。) 及び(±) デシベルとする。) 及び(±) 一五 凪 以上離れた周波数に おいて、チャネル間隔が一〇 一五 肌以上離れた周波数に おいて、チャネル間隔が一〇 眠の基地局にあっては希望 おこト(1) 国国 アッ く く(1) 血の基地局にあっては希望 おこト(1) 国国 アッ く く(1) 波の周波数から(件) | 二・五 ミリワットを〇デシベルと 彼の周波数から(性)一二・五 ミリワットを○デシベルと **匹離れた周波数において、** する。)(複号同順とする。) **伽離れた周波数において、** する。) (複号同順とする。)

チャネル間隔が一五mの基

地局にあっては希望波の周

波数から(井)一五 匹離れた

周波数において、チャネル間

隔が二〇mの基地局にあっ

ては希望波の周波数から

(井)一七・五凪離れた周波

であつて帯域幅が五配の変

調された妨害波を同時に加

えた場合においてスルー

プットがその最大値の九

2 チャネル間隔が一〇mの

五%以上(注27)

チャネル間隔が一五mの基

地局にあっては希望波の周

波数から(井)一五 地離れた

周波数において、チャネル間

隔が二〇mの基地局にあっ

ては希望波の周波数から

(t) | 七・五 砒 離れた周波

であって帯域幅が五肌の変

調された妨害波を同時に加

えた場合においてスルー

プットがその最大値の九

2 チャネル間隔が一〇mの

五%以上(注27)

五%以上 プットがその最大値の九えた場合において、スルーを○デシベルとする。)で加四三デシベル(一ミリワット物医費とれた妨害波を(1)数において、帯域幅が五船

2 最大送信電力が二四デシ ベル(一ミリワットを)デシ ベルとする。) を超え三八デ シベル(|ミリワットを()デ シベルとする。)以下のもの 基準感度より六デシベル 高い希望波に対し、チャネル 間隔が五mの基地局にあっ ては希望波の周波数から (t) 一〇 凪 離れた周波数に おいて、チャネル間隔が一〇 他の基地局にあっては希望 波の周波数から(件)一二・五 **mathemは数において、** チャネル間隔が一五mの基 地局にあっては希望波の周 波数から(t) | 玉 MHz 雑れ た周波数において、チャネル 間隔が二〇mの基地局にあ つては希望波の周波数から (井)一七・五 砒 離れた周波 数において、帯域幅が五帆 の変調された妨害波を(一) 三人デシベル( ) ミリワット を○デシベルとする。)で加

3 チャネル間隔が一五 戦の

田の では、 では、 できるなった。 できなられる。 できならい。 しいとなる。 しいとは、 できばれる。 ののでは、 できば、 できば、 できば、 できば、 できば、 でいいが、 でいいが、 でいいが、 でいが、 でいいが、 でいが、 でいいが、 でいいが、 でいいが、 でいいが、 でいいが、 でいいが、 でいいが、 でいいが、 でいが、 でいいが、 でいが、 でいいが、 でいが、 でいいが、 でいが、 五%以上 プットがその最大値の九 えた場合において、スルーを○デシベルとする。)で加 四三デシベル(一ミリワット)をの変調された妨害波を(二) 数において、帯域幅が五配

2 最大送信電力が二四デシ ベル(|ミリワットを()デシ ベルとする。) を超え三八デ シベル(|ミリワットを()デ シベルとする。)以下のもの 基準感度より六デシベル **高い希望波に対し、チャネル** 間隔が五mの基地局にあっ ては希望波の周波数から (t) 一〇 凪 離れた周波数に おいて、チャネル間隔が一〇 他の基地局にあっては希望 波の周波数から(+)一二・五 **映離れた周波数において、** チャネル間隔が一五mの基 地局にあつては希望波の周 波数から(+)一五 觇離れた 周波数において、チャネル間 隔が二〇mの基地局にあっ ては希望波の周波数から (井)一七・五 觇 離れた周波 数において、帯域幅が五帆 の変調された妨害波を(一) ニスデシベル(|ミリワット を○デシベルとする。) で加

るの チャネル間隔が一五 眠の

- プットがその最大値の九 五%以上
- 3 最大送信電力が二つデシ ベル(一ミリワットを()デシ ベルとする。) を超え二四デ シベル(|ミリワットを)デ シベルとする。)以下のもの 基準感度より六デシベル 高い希望波に対し、チャネル 間隔が五mの基地局にあっ ては希望波の周波数から (t) 1 〇 吨 離れた周波数に おいて、チャネル間隔が一〇 此の基地局にあっては希望 波の周波数から(件) 一二・五 **映離れた周波数において、** チャネル間隔が一五mの基 地局にあっては希望波の周 波数から(井)一五 地離れた 周波数において、チャネル間 隔が二〇mの基地局にあっ ては希望波の周波数から (井)一七・五 觇 離れた周波 数において、帯域幅が田島 の変調された妨害波を(一) 三王デシベル(1ミリワット を○デシベルとする。) で加 えた場合において、スルー プットがその最大値の九 五%以上

4 最大送信電力が二〇デシ

えた場合において、スケー 4 チャネル間隔が二〇 島の

基準感度より九デシベル 高い希望波に対し、希望波の 周波数から(t) | 七・五帆 雑れた周波数において(I) 五大デシベル(一ミリワット を○デシベルとする。)及び 周波数において(1)四四デ シベル( ) ミリワットを()デ シベルとする。) (複号同順と する。)であつて帯域幅が五 **凪の変調された妨害波を同** 時に加えた場合において、そ れぞれスループットがその 最大値の九五%以上 (注2)

- プットがその最大値の九 玉%以上
- 3 最大送信電力が二つデシ ベル(一ミリワットを)デシ ベルとする。)を超え二四デ シベル(|ミリワットを()デ シベルとする。)以下のもの 基準感度より六デシベル 高い希望波に対し、チャネル 間隔が五mの基地局にあっ ては希望波の周波数から (t) 一〇 地離れた周波数に おいて、チャネル間隔が一○ 此の基地局にあっては希望 波の周波数から(+)一二・五 地離れた周波数において、 チャネル間隔が一五mの基 地局にあっては希望波の周 波数から(井)一五 地離れた 周波数において、チャネル間 隔が二〇mの基地局にあっ ては希望波の周波数から (井)一七・五 觇離れた周波 数において、帯域幅が五帆 の変調された妨害波を(一) 三王デシベル(一ミリワット を○デシベルとする。) で加 えた場合において、スルー プットがその最大値の九 玉%以上
- 4 最大送信電力が二〇デシ

えた場合において、スルー 4 チャネル間隔が二〇mの

基準感度より九デシベル 高い希望波に対し、希望波の 周波数から(+)一七・五 m 雑れた周波数において(一) 五六デシベル(一ミリワット を○デシベルとする。)及び (井)二二・五 4 以上離れた 周波数において(一)四四デ シベル(|ミリワットを)デ シベルとする。) (複号同順と する。)であつて帯域幅が五 **凪の変調された妨害波を同** 時に加えた場合において、そ れぞれスループットがその 最大値の九五%以上

按	1 田	は は は か で か か が が が が が が が が が が が が が	按	1 出 プスを L の数) C 福囲波 店 チ MED 数 MED な L の数 C に は 必数 B を MED 数 MED な L と を MED が C に は が 数 を B を MED 数 MED な L と を で で な さ た た さ た い な で た な た か た か た か た か た か た か か か か か か か	26
	プットがその最大値の九			プットがその最大値の九	
	- 最大送信電力が三八デシ		-	<ul><li>現大送信電力が三八デシ</li></ul>	基準感度より四五・五デシ 心離れた周波数において、望波の周波数から(け)五 ダル高い希望波に対し、希 基準感度より一四デシもの

废析

た周波数において、チャネル 間隔が一〇mの基地局にあ つては希望波の周波数から (±) 七・五○七五 5 離れ た周波数において、チャネル 間隔が一五mの基地局にあ つては希望波の周波数から (±) 10·011H 岩羅 れた周波数において、チャネ ル間隔が二○凪の基地局に あつては希望波の周波数か ふ(+) | 1|・月○11日 岳 羅 れた周波数において、帯域幅 が五mの変調された妨害波 物(1) 用川 アシバラ(1 ミ リワットを〇デシベルとす る。) で加えた場合において、 スループットがその最大値 の九五%以上

2 最大送信電力が二四デシ ベル ( ) ミリワットを () デシ ベルとする。) を超え三八デ シベル(|ミリワットをOデ シベルとする。)以下のもの 基準感度より六デシベル 高い希望波に対し、チャネル 間隔が五凪の基地局にあっ ては希望波の周波数から (+) 五・○○二五 5 離れ た周波数において、チャネル 間隔が一〇mの基地局にあ つては希望波の周波数から (±) 七・五〇七五 品離れ た周波数において、チャネル 間隔が一五mの基地局にあ つては希望波の周波数から 

(注3)その最大値の九五%以上において、スループットがされた妨害波を加えた場合

のもの チャネル間隔が一○ 蝦

上(生の)トがその最大値の九五%以場合において、スループ%以変調された妨害波を加えた、ルループッグル高い帯域幅が五配とた。 雌離れた周波数において、近の周波数から(土)七、五進態感度より一四デシグを望

のもの 3 チャネル間隔が一五 配

み チャネル間隔が二○堀

配の変調された妨害波を デシベル高い帯域幅が五て、基準感度より三九・五田離れた周波数におい 波の周波数から(H)一二・ 北高い希望波に対し、 北高い希望波に対し、 赤望遠度より一四デシベ 废択

た周波数において、チャネル 間隔が一〇mの基地局にあ つては希望波の周波数から (+) 七・五○七五 5 離れ た周波数において、チャネル 間隔が一五mの基地局にあ つては希望波の周波数から (±) 10・0111円 畳 灩 れた周波数において、チャネ ル間隔が二〇mの基地局に あつては希望波の周波数か れた周波数において、帯域幅 が五凪の変調された妨害波 め(1) 用ニアシバラ(1 ミ リワットを〇デシベルとす る。) で加えた場合において、 スループットがその最大値 の九玉%以上

2 最大送信電力が二四デシ ベル ( ) ミリワットを()デシ ベルとする。) を超え三八デ シベル ( ) ミリワットを()デ シベルとする。)以下のもの 基準感度より六デシベル 高い希望波に対し、チャネル 間隔が五凪の基地局にあっ ては希望波の周波数から (t) 玉・〇〇二五 品離れ た周波数において、チャネル 間隔が一〇mの基地局にあ つては希望波の周波数から (t) 七・五〇七五 5 離れ た周波数において、チャネル 間隔が一五匹の基地局にあ つては希望波の周波数から (±) 1○·○111用 畳 灩

五%以上(注ε) プットがその最大値の九た場合において、スルー変調された妨害波を加え

のもの チャネル間隔が一○ 患

のもの チャネル間隔が一五 蝦

五%以上をあるような生た場合においての最大情の最大情でおいて、スカの最大値ではいて、スカーで開きれた妨害波をルルーは運動感度より四二・五子シのははの周波数から(t)一く、金貨がの間波数から(t))、金

るの チャネル間隔が二○ 堀

五凪の変調された妨害波五デシベル高い帯域幅がいて、基準感度より三九・三・五品離れた周波数にお望波の周波数から(+)一減性高い希望波の高波数から(+)一基準感度より一四デシ

れた周波数において、チャネ れた周波数において、チャネ 加えた場合において、ス を加えた場合において、ス ル間隔が二○mの基地局に ル間隔が二○mの基地局に ループットがその最大値の ループットがその最大値 あつては希望波の周波数か 九玉%以上(注3) あつては希望波の周波数か の九五%以上 で(+) | 川・用○川田 晃羅 の(±) | 1 |・H○11円 克羅 れた周波数において、帯域幅 れた周波数において、帯域幅 が五肌の変調された妨害波 が五肌の変調された妨害波 物(1) 国力ドツミラ(1 ミ や(1) 国力ドツバラ(1 ミ リワットをつデシベルとす リワットをつデシベルとす る。) で加えた場合において、 る。) で加えた場合において、 スループットがその最大値 スループットがその最大値 の九五%以上 の九五%以上 3 最大送信電力が二つデシ 3 最大送信電力が二つデシ ベル ( | ミリワットを()デシ ベル(一ミリワットをつデシ ベルとする。) を超え二回デ ベルとする。) を超え二回デ シベル ( | ミリワットを)デ シベル ( ) ミリワットをつぎ シベルとする。)以下のもの シベルとする。)以下のもの 基準感度より六デシベル 基準感度より六デシベル 高い希望波に対し、チャネル **高い希望坡に対し、チャネル** 間隔が五mの基地局にあっ 間隔が五匹の基地局にあっ ては希望波の周波数から ては希望波の周波数から (±) 五・〇〇二 五 品 雛 れ (±) 五・〇〇二年 品離れ た周波数において、チャネル た周波数において、チャネル 間隔が一〇mの基地局にあ 間隔が一〇mの基地局にあ つては希望波の周波数から つては希望波の周波数から (±) 七・H〇七H 品離れ (±) 七・H〇七日 呂 雛 た た周波数において、チャネル た周波数において、チャネル 間隔が一五地の基地局にあ 間隔が一五凪の基地局にあ つては希望波の周波数から つては希望波の周波数から (±) 1〇·〇11|H 呂響 れた周波数において、チャネ れた周波数において、チャネ ル間隔が二○mの基地局に ル間隔が二〇mの基地局に あつては希望波の周波数か あつては希望波の周波数か ふ(+) | 川・用○川田 5 羅 で(+) | 1|・||○||||| 日 耀 れた周波数において、帯域幅 れた周波数において、帯域幅 が五凪の変調された妨害波 が五凪の変調された妨害波 物(I) 国国 アッ √ √ √ ( I m や(一) 四国アシベラ(一三 リワットをつデシベルとす リワットをつデシベルとす

変	ベルとする。) を超えるもの	基準感度より大デシベル		核	ベルとする。) を超えるもの	基準感度より六デシベ
互相	ベル(一ミリワットを○デシュ 最大送信電力が三八デシ	もの チャネル間隔が五 戦の		五 相	ベル(一ミリワットを○デシュ 最大送信電力が三人デシ	
	の九五%以上		1		の 九 元 1 2 1 2 1 2 3 1 3 1 3 1 3 1 3 1 3 3 1 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3	
	スループットがその最大値				スループットがその最大値	
	る。)で加えた場合において、				る。) で加えた場合において、	
	リワットを〇デシベルとす				リワットを〇デシベルとす	
	を (1) 11 < デッベル (1 ミ				を (1) 二 (デッベル (1 ミ	
	が五郎の変調された妨害波				が五㎞の変調された妨害波	
	れた周波数において、帯域幅				れた周波数において、帯域幅	
	ひ(±)   1  ・HO11H 景響				の(±)  ・HO   H 監	
	あつては希望波の周波数か				あつては希望波の周波数か	
	ル間隔が二〇mの基地局に				ル間隔が二〇㎞の基地局に	
	れた周波数において、チャネ				れた周波数において、チャネ	
	(±) 10・0111円置器				(±)   O · O   1   H Z	
	つては希望波の周波数から				つては希望波の周波数から	
	間隔が一五帆の基地局にあ				間隔が一五郎の基地局にあ	
	た周波数において、チャネル				た周波数において、チャネル	
	(±) 七・H○七H 点 離だ				(±) 七・五○七五 W 離れ	
	つては希望波の周波数から				つては希望波の周波数から	
	間隔が一〇mの基地局にあ				間隔が一〇地の基地局にあ	
	た周波数において、チャネル				た周波数において、チャネル	
	(±) 王・○○11年 2 離れ				(±) H・OO1 H Z 離れ	
	つては希望波の周波数から				つては希望波の周波数から	
	ル間隔が五帆の基地局にあ				ル間隔が五地の基地局にあ	
	ル高い希望波に対し、チャネ				ル高い希望波に対し、チャネ	
	基準感度より111デシベ				基準感度よりニニデシベ	
	ベルとする。)以下のもの				ベルとする。)以下のもの	
	ベル (   ミリワットを ) デシ				ベル (   ミリワットを)デシ	
	4 最大送信電力が二〇デシ				4 最大送信電力が二〇デシ	
	の九玉%以上				の九五%以上	
	スループットがその最大値				スループットがその最大値る。) で加えた場合において、	

性特調

基準感度より六デシベル 高い希望波に対し、チャネル 間隔が五凪の基地局にあっ ては希望波の周波数から (±) 一〇型及び(±) 二 ○ 瓜 (複号同順とする。) 離 れた周波数において、チャネ ル間隔が一〇凪の基地局に あつては希望波の周波数か の(±) | 1 |・11 | 七 | 日 | 2 | 2 | び (井) 二二・五郎 (複号 同順とする。)離れた周波数 において、チャネル間隔が一 五mの基地局にあっては希 望波の周波数から(井)一 (複号同順とする。) 離れた 周波数において、チャネル間 隔が二〇mの基地局にあっ ては希望波の周波数から (±) | 七・| 二 五 4 及び (土) 二七・五 型 (複号同 順とする。) 雑れた周波数に おいて、それぞれ(1) 五二 デシベル(|ミリワットを) デシベルとする。) の変調の ない妨害波及び帯域幅が五 眠の変調された妨害波を同 時に加えた場合において、ス ループットがその最大値の 九五%以上

基準感度より六デシベルシベルとする。)以下のものシベル(一ミリワットを○デッベルとする。)を超え三八デベルとする。)を超え三八デベル(一ミリワットを○デシュ 泉大送信電力が二四デシ

っもの チャネル間隔が一○ 駅

のもの チャネル間隔が一五 戦

る。)の変調のない妨害按及 フットを○デシベルとすて(I)四六デシベルとすする。)離れた周波数においび(±)三○配(複号同順との周波数の分(±)|五型及 高い希望波に対し、希望波 基準感度より七デシベル 本 特 調

基準感度より六デシベル 高い希望波に対し、チャネル 間隔が五凪の基地局にあっ ては希望波の周波数から (井) 一〇祖及び(井) 二 ○ 邸 (複号同順とする。) 離 れた周波数において、チャネ ル間隔が I ○ 凪の基地局に あつては希望波の周波数か ら (±) | 1 |・11 | 1 | 1 | 1 | 2 | 2 | び(+) 二二・五配 (複号 同順とする。)離れた周波数 において、チャネル間隔が一 望波の周波数から(艹)一 四・七五 4 及び(t) 二五 4 (複号同順とする。) 離れた 周波数において、チャネル間 隔が二〇mの基地局にあっ ては希望波の周波数から (+) | 七・| 二年 4 及び (井) 二七・五 塩(複号同 順とする。)雑れた周波数に おいて、それぞれ(1)五二 デシベル (一ミリワットを) デシベルとする。) の変調の ない妨害波及び帯域幅が五 眠の変調された妨害波を同 時に加えた場合において、ス ループットがその最大値の 九五%以上

基準感度より六デシベルシベルとする。)以下のものシベル(一ミリワットを(デベルとする。)を超え三八デベルとする。)を超え三八デベル(一ミリワットを(デシス共信電力が二四デシ

っもの チャネル間隔が一○ 駅

のもの チャネル間隔が一五 蝦

ルとする。)の変調のない坊 (一ミリワットを○デシベおいて(一)四大デシベル 順とする。)離れた周波数に 取の周波数から(±)三○咄(複号同はのは、注)○山(複号同は数から(+)一五 北高い希望波に対し、希望基態度より七デシベ

高い希望波に対し、チャネル 間隔が五瓜の基地局にあっ ては希望彼の周波数から (±) 10型及び(±) 11 ○ 砒 (複号同順とする。) 離 れた周波数において、チャネ 4 チャネル間隔が二〇 肌 ル間隔が一○四の基地局に あつては希望波の周波数か ら (±) | 二・川七年 2 枚 び(+)111・五四(複号 同順とする。) 離れた周波数 において、チャネル間隔が一 五肌の基地局にあつては希 望波の周波数から(井)一 (複号同順とする。) 離れた 周波数において、チャネル間 隔が二〇mの基地局にあっ ては希望波の周波数から (±) 一七・一二五 超 及び (土) ニヤ・五品 (複号同 順とする。) 離れた周波数に おいて、それがれ(1) 回力 デシベル (一ミリワットを) デシベルとする。) の変調の ない妨害波及び帯域幅が五 **凪の変調された妨害波を同** 排に加えた場合において、<br />
ス ループットがその最大値の 九五%以上

3 最大送信電力が二つデシ ベル ( ) ミリワットをつデシ ベルとする。) を阻え二旦デ シベル (一ミリワットを)デ シベルとする。)以下のもの 基準感度より六デシベル 高い希望波に対し、チャネル

び帯域幅が五帆の変調さ れた妨害波を同時に加えた 場合において、スカープッ トがその最大値の九五%以 工(年4)

のもの

基準感度より九デシベル 高い希望波に対し、希望波 の周波数から(性)一七・五 邸及び(±)三五邸(複号同 順とする。)離れた周波数に おこん(1) 固化アツミラ(1 ミリワットをつデシベルと する。)の変調のない妨害坡 及び帯域幅が五肌の変調 された妨害波を同時に加え た場合において、スルー プットがその最大値の九 五%以上(生4)

高い希望波に対し、チャネル 間隔が五瓜の基地局にあっ ては希望波の周波数から (+) 10単枚が(+)11 ○ 咫(複号同順とする。) 離 れた周波数において、チャネ ル間隔が一○凪の基地局に あつては希望波の周波数か ら (±) | 二・川七年 2 枚 び(井)111・五郎 (複号 同順とする。) 離れた周波数 において、チャネル間隔が一 五肌の基地局にあつては希 望波の周波数から(井)一 四・七五 地及び(t) 二五 地 (複号同順とする。) 離れた 周波数において、チャネル間 隔が二〇mの基地局にあっ ては希望波の周波数から (±) | 七・| 二年 4 及び (土) 二七・五品 (複号同 順とする。) 離れた周波数に おいて、それぞれ (1) 四七 デシベル (一ミリワットを) デシベルとする。) の変調の ない妨害波及び帯域幅が五 **凪の変調された妨害波を同** 時に加えた場合において、ス ループットがその最大値の 九五%以上

3 最大送信電力が二つデシ ベル ( ) ミリワットをつデシ ベルとする。) を阻え二旦デ シベル ( ) ミリワットを()デ シベルとする。)以下のもの 基準感度より六デシベル 高い希望波に対し、チャネル 害波及び帯域幅が五帆の 変調された妨害波を司時 に加えた場合において、ス ループットがその最大値 の九五%以上

4 チャネル間隔が二〇m のもの

基準感度より九デシベ ル高い希望波に対し、希望 彼の周波数から(井)一七・ 五 吡 及び(±)三五 毗 (複号 同順とする。)離れた周波数 **おおいて(T) 固れ アッパラ** ( | ミリワットを ( ) デシベ ルとする。)の変調のない坊 害波及び帯域幅が五肌の 変調された妨害波を同時 に加えた場合において、ス ループットがその最大値 の九五%以上

間隔が五吨の基地局にあつ
ては希望波の周波数から
(±) 10 型及び(±) 11
○邸(複号同順とする。)離一(≒)→○歯ので(≒)→
れた周波数において、チャネーの個(存号同則)であって、
小間隔が一○ 型の基地局に が方見返券におりて ラッネー
あつては希望波の周波数か
の (±)   1 ・1 十月 2 枚
び (井) 1111・王 聖 (複号
同順とする。)離れた周波数
において、チャネル間隔が一
五眠の基地局にあつては希
望波の周波数から(#)一
団・七五 斑 及び (井) 二五 蝦
(複号同順とする。) 離れた
周波数において、チャネル間
隔が二〇mの基地局にあっ
ては希望波の周波数から
(井)   七・  二五 堀 及び
(井) 二七・五 姫(複号同
順とする。)離れた周波数に
おいて、それぞれ (I) 四四
デシベル (一ミリワットを)
デシベルとする。)の変調の
ない妨害波及び帯域幅が五
<b>凪の変調された妨害波を同</b>
時に加えた場合において、ス
ループットがその最大値の
九玉%以上
4 最大送信電力が二〇デシース三のグレー
ベル(一ミリワットを(デシー)
ベルとする。)以下のもの
基準感度より一四デシベーググラグ・ソジョウもの
ル高い希望波に対し、チャネー 基準 原度より 一四ラミ 〜
2 日隔が五地の基地局にあ
(ナ) 10 4 7が (ナ) 11
(±) 10型及び(±) 11

間隔が五眠の基地局にあつ
ては希望波の周波数から
(井) 一〇盟政(井) 二
○嘅(複号同順とする。)離
れた周波数において、チャネ
ル間隔が一○ 宀の基地局に
あつては希望波の周波数か
ら (+) 一二・三七五 斑及
び (井) 二二・五 昭 (複号
同順とする。)離れた周波数
において、チャネル間隔が一
五 肌 の基地局にあつては希
望波の周波数から(艹)一
四・七五 蝦 及び (井) 二五 魁
(複号同順とする。) 離れた
周波数において、チャネル間
隔が二〇۔眠の基地局にあつ
ては希望波の周波数から
(+)   七・  二玉 型 及び
(井) 二七・五 ۔ 復号同
順とする。)離れた周波数に
おいて、それぞれ(一)四四
デシベル (一ミリワットを)
デシベルとする。)の変調の
ない妨害波及び帯域幅が五
Eg の変調された妨害波を同
時に加えた場合において、ス
ループットがその最大値の
九玉%以上
4 最大送信電力が二〇デシ
ベル(一ミリワットを○デシ

基準感度より一四デシベベルとする。)以下のもの

(比) 一〇 朏 及び(比)二つては希望波の周波数からル間隔が五 朏 の基地局にあル高い希望波に対し、チャネ

各腺送波におけるこの表の値を満たすこと。

イ アに掲げるもの以外

ア 一の搬送波の周波数が三・四 迅以上三・六 迅以下のもの 各艘送坡におけるこの表の基準感度の値につ・五デシベルを加えた 値を満たすこと。

ごこの熊送波が隣接しない場合

九五%以上

受信している状態において、炊に掲げる許容値を満たすこと。

2 二の搬送波を同時に受信する受信装置にあっては、二の搬送波を同時に

注1 二の腕送波を同時に受信する受信装置にあっては、二の毈送波を同時に 受信している状態において、各機送波におけるこの表の値を満たすこと。

○ 宀(複号同順とする。) 離 れた周波数において、チャネ ル間隔が一〇凪の基地局に あつては希望波の周波数か の(±) | 1 |・11 | 1 | 1 | 日 | 2 | 2 | び(+)111・五品(複号 同順とする。)雑れた周波数 において、チャネル間隔が一 五mの基地局にあっては希 望波の周波数から(牛) 四・七五 5及び(井)二五 5年 (複号同順とする。) 離れた 周波数において、チャネル間 隔が二〇mの基地局にあっ ては希望波の周波数から (+) | 七・| 二 五 斑 及び (井) 二七・五 昭 (複号同 順とする。) 離れた周波数に おいて、それがれ(1)三六 デシベル (一ミリワットを) デシベルとする。) の変調の ない妨害波及び帯域幅が五 **岷の変調された妨害波を同** 時に加えた場合において、ス ループットがその最大値の

れた周波数において、チャネ ル間隔が一〇砥の基地局に あつては希望波の周波数か ら (±) | 二・川七田 超 枚 び(+)111・五品(複号 同順とする。) 離れた周波数 において、チャネル間隔が一 五砒の基地局にあつては希 望波の周波数から(井) 四・七五 5 及び (井) 二五 5 (複号同順とする。) 離れた 周波数において、チャネル間 隔が二〇mの基地局にあっ ては希望波の周波数から (+) | 七・| 二年 2 及び (土) 二七・五 起 (複号同 順とする。) 離れた周波数に おいて、それぞれ(1)三六 デシベル (一ミリワットを) デシベルとする。) の変調の ない妨害波及び帯域幅が五 **岷の変調された妨害波を同** 時に加えた場合において、ス ループットがその最大値の 九五%以上

○ 宀(複号同順とする。)離

注1 二の搬送波を同時に受信する受信装置にあっては、二の搬送波を同時に受 信している状態において、各艘送波におけるこの表の値を満たすこと。

2 二の搬送波を同時に受信する受信装置にあっては、二の搬送波を同時に 受信している状態において、次に掲げる許容値を満たすこと。

ごこの熊送波が隣接しない場合

ア 一の搬送波の周波数が三・四 迅以上三・六 迅以下のもの 各般送波におけるこの表の基準 惑更の値に し・五デシベルを加えた 値を満たすこと。

イ アに掲げるもの以外 各腴送波におけるこの表の値を満たすこと。

- ② 二の腕送波が隣接する場合
  - 時に加えた場合においてスループットがその最大値の九五%以上(複号同順とする。)であつて帯域幅が五 畑の変調された妨害波を同数において(1)四四デシベル(一ミリワットを○デシベルとする。)フットを○デシベルとする。)及び(t)一七・五 凪 以上離れた周波(t)一二・五 凪 離れた周波数において(1)五六デシベル(一ミリ革準感度より九デシベル高い希望波に対し、希望波の周波数からア 二の機送波のチャネル間隔が五 凪 と五 凪 の組合せのとき
  - た場合においてスループットがその最大値の九五%以上に場合においてスループットがその最大値の九五%以上でろ。)であつて帯域幅が五 ۔ の変調された妨害波を同時に加えて(1)四四デシベル(一ミリワットを○デシベルとする。)(複号同トを○デシベルとする。)及び(艹)二○ ۔ 助以上離れた周波数におい(+)一五 ㎞離れた周波数において(1)五六デシベル(一ミリワッ基準感度より「ガデシベル高い希望波に対し、希望波の周波数からイ 二の搬送波のチャネル間隔が五 ۔ ۔ の ۔ の ۔ の ぬらせのとき
  - 一〇mの組合せのときり 一〇晩送波のチャネル間隔が五嶋と一五嶋の組合せ又は一〇嶋と

特に加えた場合においてスループットがその最大値の九五%以上(複号同順とする。)であつて帯域幅が五 凪の変調された妨害波を同数において(I)四四デシベル(Iミリワットを○デシベルとする。)フットを○デシベルとする。)及び(t)二三・五 凪 以上離れた周波(t) 一七・五 凪離れた周波数において(I)五六デシベル(Iミリ基準感度より九デシベル高い希望波に対し、希望波の周波数から

- 受信している状態において、次に掲げる許容値を満たすこと。
  3 二の搬送波を同時に受信する受信装置にあつては、二の搬送波を同時に
- ① 二の熊送波が隣接しない場合
  - 値を満たすこと。 各搬送波におけるこの表の基準感度の値に○・五デシベルを加えたア 一の搬送波の周波数が三・四 晩 以上三・六 晩 以下のもの
  - イ アに掲げるもの以外

各機送波におけるこの表の値を満たすこと。

- ② 二の腕送波が隣接する場合
  - (井)七・五 砒 離れた周波数において、二の概送波の合計受信電力よ基準感度より一四デシベル高い希望波に対し、希望波の周波数からア 二の搬送波のチャネル間隔が五 凪 と五 凪 の組合せのとき

- ② 二の熊送波が隣接する場合
  - えた場合においてスループットがその最大値の九五%以上号同順とする。)であつて帯域幅が五 呱の変調された妨害波を同時に加において(I)四四デシベル(一ミリワットを○デシベルとする。)(複ワットを○デシベルとする。)及び(+)一七・五 呱以上離れた周波数(+)一二・五 呱離れた周波数において(I)五六デシベル(1ミリ基準感度より「二デシベル高い希望波に対し、希望波の周波数からア 二の機送波のチャネル間隔が五 呱と五 呱の組合せのとき
  - 合においてスループットがその最大値の九五%以上とする。)であつて帯域幅が五 5mgの変調された妨害波を同時に加えた場(I)四四デシベル(一ミリワットを○デシベルとする。)(複号同順トを○デシベルとする。)及び(t)I)0畳以上離れた周波数において(t)1五畳離れた周波数において(I)五六デシベル(一ミリワッ基準感度より「Iデシベル高い希望波に対し、希望波の周波数からイ IIの搬送波のチャネル間隔が五畳と10畳の組合せのとき

- 受信している状態において、次に掲げる許容値を満たすこと。
  3 二の搬送波を同時に受信する受信装置にあつては、二の搬送波を同時に
- ① 二の熊送波が隣接しない場合
  - 値を満たすこと。各搬送波におけるこの表の基準感度の値に○・五デシベルを加えたア 一の搬送波の周波数が三・四 晩以上三・六 晩以下のもの
  - イ アに掲げるもの以外

各機送波におけるこの表の値を満たすこと。

- ② 二の機送波が隣接する場合
  - (井)七・五 砒 離れた周波数において、二の搬送波の合計受信電力よ基準感度より一四デシベル高い希望波に対し、希望波の周波数からア 二の搬送波のチャネル間隔が五 觇 と五 凪 の組合せのとき

合においてスループットがその最大値の九五%以上り二五・五デシベル高い帯域幅が五 ۔ の変調された妨害波を加えた場

- においてスループットがその最大値の九五%以上 |||五・五デシベル高い帯域幅が五 呱 の変調された妨害波を加えた場合(比) |○ 岷離れた周波数において、二の搬送波の合計受信電力より基準感度より | 四デシベル高い希望波に対し、希望波の周波数からイ 二の搬送波のチャネル間隔が五 呱 と |○ 呱 の組合せのとき
- 一〇mの組合せのときり 一〇晩送波のチャネル間隔が五吨と一五瓜の組合せ又は一〇凪と

場合においてスループットがその最大値の九五%以上より二五・五デシベル高い帯域幅が五 畑の変調された妨害波を加えた(け)一二・五 凪離れた周波数において、二の概送波の合計受信電力基準感度より一四デシベル高い希望波に対し、希望波の周波数から

- 受信している状態において、次に掲げる許容値を満たすこと。4 二の搬送波を同時に受信する受信装置にあつては、二の搬送波を同時に
  - ごこの熊送波が隣接しない場合
    - 値を満たすこと。 各搬送波におけるこの表の基準感度の値に○・五デシベルを加えたア 一の搬送波の周波数が三・四晩 以上三・六 晩 以下のもの
    - 各搬送波におけるこの表の値を満たすこと。 イ アに掲げるもの以外
  - ② 二の機送波が隣接する場合
    - と 波を同時に加えた場合においてスループットがその最大値の九五%以ルとする。)の変調のない妨害波及び帯域幅が五 畑の変調された妨害数において、それぞれ(I)四六デシベル(一ミリワットを○デシベ(艹)一二・五 凪 及び(艹)二五 凪 (複号同順とする。) 離れた周波基準感度より 九デシベル高い希望波に対し、希望波の周波数からア 二の搬送波のチャネル間隔が五 凪 と五 凪 の組合せのとき
    - 同時に加えた場合においてスループットがその最大値の九五%以上する。)の変調のない妨害波及び帯域幅が五 凪の変調された妨害波をおいて、それぞれ(一)四六デシベル(一ミリワットを○デシベルと(十)一五 凪 及び(十)三○ 凪(複号同順とする。)離れた周波数に基準感度より九デシベル高い希望波に対し、希望波の周波数からて 二の搬送波のチャネル間隔が五 凪 2 四 の組合せのとき

合においてスループットがその最大値の九五%以上り二二・五デシベル高い帯域幅が五 ۔ の変調された妨害波を加えた場

- 受信している状態において、次に掲げる許容値を満たすこと。4 二の搬送波を同時に受信する受信装置にあつては、二の搬送波を同時に
  - ① 二の搬送波が隣接しない場合
    - 値を満たすこと。各機送波におけるこの表の基準感度の値に〇・五デシベルを加えたア 一の搬送波の周波数が三・四 晩以上三・六 晩 以下のもの
    - 各搬送波におけるこの表の値を満たすこと。 イ アに掲げるもの以外
  - ② 二の機送波が隣接する場合
    - を同時に加えた場合においてスループットがその最大値の九五%以上ルとする。)の変調のない妨害波及び帯域幅が五 凪の変調された妨害波数において、それぞれ(Ⅰ)四六デシベル(一ミリワットを○デシベ(艹)一二・五 凪 及び(艹)二五 凪(複号同順とする。) 離れた周波基準感度より | 二分級の前い希望波に対し、希望波の周波数からア 二の搬送波のチャネル間隔が五 凪 と五 凪 の組合せのとき
    - 時に加えた場合においてスループットがその最大値の九五%以上する。)の変調のない妨害波及び帯域幅が五 畑 の変調された妨害波を同おいて、それぞれ(1)四六デシベル(一ミリワットを○デシベルと(艹)一五 凪 及び(艹)三○ 凪(複号同順とする。) 離れた周波数に革準感度より「ニデシベル高い希望波に対し、希望波の周波数からイ 二の搬送波のチャネル間隔が五 凪 と一〇 凪 の組合せのとき